

令和4年度（2022年度）島根県立大学  
国際関係学部 国際関係学科  
国際関係コース

学校推薦型選抜（一般推薦）

小論文

【試験時間 90分】

以下の注意事項をよく読んで指示に従うようにしてください。

指示に従わない場合は、不正行為と見なしますので、注意してください。

1. 解答開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。許可なくこの問題冊子を開いた場合は、不正行為と見なします。
2. 解答時間は90分です。
3. 試験問題は、1ページから4ページです。解答開始の合図があった後、問題冊子を確認し、印刷不鮮明な箇所等があった場合は、直ちに申し出てください。
4. 解答用紙は2枚あり、問題冊子とは別になっています。解答は指定された解答用紙の解答欄に横書きで記入してください。
5. 受験番号、氏名は2枚の解答用紙の所定欄すべてに記入してください。
6. 問題冊子の余白を下書きに利用しても構いません。
7. 解答時間中の退出はできません。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

**問題** 次の文章を読んで、後の設問に解答しなさい。なお、文章中にある（注1）～（注3）は、出題者が付したもので文章末にまとめて記載してある。

筆者（東）が初めてタイの農村でフィールドワークを行ったのは、バンコクの大学に交換留学をしていた大学4年生の時だった。地域住民参加型の社会開発事業を対象に、住民組織の成功と失敗の要因を分析する、という卒業論文のための調査で、タイ東北部の村に数日滞在することになった。調査はハプニングの連続で、目的地でバスを降り損ね、早朝に見知らぬ町でバスを待つ羽目になったり、恐る恐る水瓶から冷たい水をすくって水浴びをしている途中で停電になり、暗闇の中、手探りで石鹸を洗い流したり、事前に約束を取り付けていたはずのインフォーマント<sup>（注1）</sup>の家を訪れたら、数日後まで留守だと言われたり。一方で、滞在中に村のお祭りがあり、その日の調査の予定は延期になったが、祭りの「天女」役に抜擢され、厚化粧と伝統衣装で村を練り歩くという楽しいハプニングもあった。

大学院生としてタイ北部で伝統的な灌漑管理組織<sup>かんがい</sup>についての調査をした際は、調査補助のタイ人学生から当日になって「今日は行けなくなった」という連絡が入ったことがあった。せっかくの調査期間が無駄になってしまう、と苛立ちを隠せない私を、調査中泊めてくれていた家のお父さんが、「暇なら農作業を手伝え」と畑に連れ出してくれた。見よう見まねで手伝う農作業の合間には、森に入ってタケノコや野生ハーブを採り、出来立てのタケノコのスープを味わった。インタビュー調査だけでは知ることができない、農村の暮らしと森林資源のつながりや、親戚や親しい者同士が共同で作業する地域の農業の様子についても知ることができた。予期せぬことが次々起こり、それに驚いたり、戸惑ったり、楽しんだりしながら、周りの人に助けられながら対処し、そこに新しい発見が生まれる、というのはいまも変わらないフィールドワークの醍醐味<sup>だいごみ</sup>である。

フィールドワークの方法は調査者によっても、地域の特性によってもそれぞれで、言葉が分からない場所で、通訳を介して調査をすることもあり得るが、言語はフィールドワークを行う上での重要な道具となる。そして、言語がもっとも必要となる場面の一つは、調査対象者との「雑談」であろう。調査票<sup>（注2）</sup>を用いたインタビューに答えた後、調査対象者が雑談の中で調査票の回答とは矛盾するような意見を語ることや、食事や酒宴の場で思わぬ本音が聞けることもある。また、短い現地での滞在であったとしても、会話を通じて調査対象者を含む地域の人との距離が縮まり、そうして作られた人々との関係性が調査の方向性を決めたり、質を高めたりすることもある。

農村調査に限ったことではないが、人と関わりながら調査をする限り、そこには調査者とそこで暮らす人々の間で人間関係が作られる。相対的に外国人が珍しい農村部では、

調査者は「目立つ」存在であるし、村で誰かの家に泊めてもらうことになれば、必然的に関係も深くなる。筆者にも「お父さん、お母さん」「私の娘」と呼びあえる人たちがいる。一方で、当然のことながら、村の中には村の人間関係がある。調査者にとって「お父さん」と呼べる信頼関係を築いた村長は、ある村人にとってはビジネス上のパートナーであったり、別の村人にとっては政敵であったりもする。それは、そうした人たちのインタビューの答え方に影響するばかりでなく、場合によっては、外国人である調査者を案内することが権威づけにつながるなど、(A) 調査者の存在が現地の人間関係に影響を及ぼす可能性もある。

調査対象との距離をどのように取るかどうかは、調査者によってそれぞれだが、透明人間でない限り、現地の人間関係とまったく無関係でいることは難しい。そのため現地の権力構造や基本的な住民組織の代表者などの情報は把握しておく必要がある。タイでは村長は選挙で選ばれ、また各村2名ずつ自治体の評議員が選出される。最近の選挙で誰が立候補し、それぞれの得票数はどうだったか、主な住民組織の代表者は過去にどのような役職に就いていたことがあるかなどの情報が得られれば、大雑把な村の権力構造を把握できる。それでも、調査者の関わり方が調査結果に及ぼす影響や、調査者自身が現地に与える影響を完全に回避できないが、(B) それらの影響を最小限にする努力をする必要があるだろう。

最初にタイの農村で質問票を用いた半構造化インタビュー調査<sup>(注3)</sup>を実施した際、村の中の住民組織の会合の開催回数、年会費、代表者の選出方法といった、単純な「事実」だと思われる項目について、バラバラな答えが返ってくることに戸惑うことがあった。そこで他のインタビュー項目や別の聞き取りの内容を合わせて考えると、活動に積極的でない組合員は、会合や年会費について詳しく覚えておらず、「間違っただけ」回答をしている可能性があり、公平な選挙で選ばれているはずの代表者の選出方法をめぐり「嘘」や「勘違い」は、現在の組合の運営に対する回答者の不信感が背景にあることが見えてきた。

そもそも、調査対象者としては、時として家族構成や収入源といったプライベートな事柄まで尋ねてくるよそ者である調査者に、本当のことを話さなくてはいけない義務はなく、いい加減に答えることもあるだろう。しかし、調査対象者が敢えてつく「嘘」の裏に、現場を理解するヒントが隠されていることもある。調査の中で生まれた疑問を、質問の仕方を変えてみたり、雑談のなかでそれとなく聞いてみたりしながら、一つずつピースをはめていくような作業もフィールドワークならではの面白さではないだろうか。

(C) フィールドワークを実施する時に気にかかるのは、この調査は調査を行った地域の人々にとって「何の役に立つのだろうか？」という疑問である。日本から持ってきた

ささやかな記念品などを謝礼として渡すこともあるが、基本的には人々は好意で、あるいは仕方なくインタビューなどの調査に協力する時間を割いてくれる。調査によっては、農繁期などの多忙な時期に協力をお願いせざるをえない。

筆者は、環境 NGO のスタッフとしてラオスに駐在し、ラオス国立大学や地方行政と協働して水源林保全事業に携わっていたことがあり、その中では具体的な現地の問題解決を想定したアクション・リサーチを行った。アクション・リサーチとは、調査で得られた知見を具体的な現状の改善につなげることを目的とした実践的研究のことである。アクション・リサーチとしてデザインされた調査でなくとも、調査で明らかになった地域の資源利用についての課題を国際機関や中央政府の行政官に向けて提言することもある。現在取り組んでいるタイの水資源利用をめぐる調査では、灌漑管理システムの運営面の課題を灌漑局に提言しようと試みている。地域を歩いて現場で起きている問題や人々の意識や行動を把握しようとする地域研究は、ともすればトップダウンで決められがちな現地の政策の課題を明らかにし、政策提言といった支援につながる可能性もある。

一方で、直接的に問題解決や政策支援につながる研究でなくとも、研究成果を現地にもどのようにフィードバックできるかという問題意識を持つておくことは大切なのではないだろうか。少なくとも私の滞在を受け入れ、忙しい時間を割いてインタビューに答え、村を案内し、時には食事を共にし、歌って踊った村の人たちを、単なる「データ」として扱うのではなく、そこで生まれた人間関係を今後も大事にしたいと考えている。

(出典：森口岳・東智美「地域研究のアプローチ—図書館とフィールドの間で」児玉谷史朗・佐藤章・嶋田晴行編著『地域研究へのアプローチ—グローバル・サウスから読み解く世界情勢—』ミネルヴァ書房、2021年、27-31頁。なお、出題にあたって、一部表記・表現を改めたり、リード文や見出し等を省略したりしている。)

- (注1) インフォーマント……調査のプロセスで調査者に現地の情報を提供してくれる協力者。
- (注2) 調査票……調査目的に基づいて、調査を通じて明らかにしたいことを具体的な質問項目にして配列整序して表し、調査対象者から回答を得るための様式。
- (注3) 半構造化インタビュー調査……調査目的に基づいて事前におおまかな質問項目を用意して調査対象者と対話をおこない、調査対象者の回答に応じて質問を重ねて掘り下げていく調査手法。

設問 1 文章中、ハプニングや雑談がフィールドワークの醍醐味であると述べられている。調査地でのハプニングや雑談が持つ醍醐味とは何か、また、それらが研究を進めるうえでどのような意義を持つのか。著者の考えを文章中の語句を用いて 250 字以内で説明しなさい。

設問 2 下線部 (A) および下線部 (B) に関して、調査者が現地の人間関係に与える影響とは具体的にどのようなものであるか、また、その影響を最小限にとどめる必要があるのはなぜか。文章中の語句を用いて 200 字以内で説明しなさい。

設問 3 下線部 (C) に関して、調査・研究が「役に立つ」とはどのようなことであるか。著者の考えをまとめたうえで、あなたが高等学校の「総合的な学習の時間」で取り組んだ探究的な学習（以下、探究学習）の成果が、社会にとってどのような意味をもっており、どのように社会にフィードバックできるとあなたは考えているか、具体的に根拠を示して述べなさい。解答には、探究学習が何をテーマとし、どのような調査を行い、どのような論拠に基づいて何を明らかにしたのか、に関する簡潔な説明も含めなさい。解答は、解答欄（1 行 25 文字）に 25 行以上 30 行以内で記述しなさい。

(以下余白)